

## 鶴見区区政会議 平成28年度第3回 こども教育部会

### 1 日時

平成28年11月10日（木） 19時00分～19時52分

### 2 場所

鶴見区役所 4階 403会議室

### 3 出席者

（委員）

西岡部会長、真鍋副部会長、木本委員、前川委員、宮田委員

（区役所）

河村区長、萩副区長、田中こども・教育担当課長、嶋原保健福祉課長、

丸井こども・教育担当課長代理、貴田子育て支援担当課長代理、

日下保健福祉課担当係長、杉本地域活動支援課担当係長

### 4 議題

平成29年度鶴見区運営方針の素案について

### 5 議事

開会 19時00分

○杉本地域活動支援課担当係長 ただいまから鶴見区区政会議平成28年度第3回こども教育部会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、地域活動支援課担当係長の杉本でございます。よろしくお願いします。

それでは開会にあたりまして、河村区長からご挨拶を申し上げます。

○河村区長 皆さん、こんばんは。今日は遅い時間、お忙しい中、また一段と寒くなった中お集まりいただきまして、ありがとうございます。この間、こども教育部会のほうで平成29年度に向けたいろんな取組みについてご議論を賜ってきたところ

ですけれども、今日は平成２９年度の具体的取組みの素案を中心にご説明させていただき、また、いろんな角度からご意見なりご議論賜ればと思っておりますので、最後までよろしくお願いいたします。

**○西岡部会長** 部会長の西岡です。皆さん、こんばんは。本日は、夜間のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

今年度、第３回目になります部会ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題の平成２９年度鶴見区運営方針の具体的取組みの素案について、事務局から説明をお願いいたします。

**○日下保健福祉課担当係長** それではまず、私のほうからご説明させていただきます。

資料の１をご覧くださいませでしょうか。

この資料につきましては、鶴見区運営方針のうち、各年度の具体的取組みについて抜粋したものでございます。区政会議の委員の皆様からのご意見を反映した部分を、わかりやすくまとめさせていただきました。資料、最後の１枚の資料２につきましては、今年度の区政会議でいただきました主なご意見とその対応について記載しております。本日は、この資料に沿って戦略ごとに説明させていただきます。

では、資料１に戻っていただきまして、まず経営課題３ 次世代育成に向けたまちづくりのうちの戦略３－１ 安心して子育てできる環境づくりの１ 子育て支援の充実からご説明させていただきます。

まず、平成２９年度の具体的取組みについてご説明させていただきます。

１番目、「愛ＬＯＶＥこどもフェスタ」の開催を１回予定しております。これにつきましては、平成２７年度は約８６０名、平成２８年度は約７６０名の親子の皆さんにご参加いただきました。実行委員会が主催ということで、来年の５月の開催に向けて、平成２８年度の反省会でご意見のありましたオープニングのあり方を含めました出し物について、より多くの皆さんに交流してもらえるフェスタとなるように、検討

を深めてまいりたいと思っております。

次に、「つるみっ子ルーム」の利用率90%以上としておりますけれども、平成27年度、平成28年度につきましては、開設時間の延長や、子育て支援室の保育士によりますお楽しみ会の実施など、親子で楽しみながら交流を深めてもらえるように、ソフト面の充実に努めてまいりました。また、ベビーベッドの増設や空気清浄機の設置など、ハード面での整備も引き続き進めていきたいと思っております。また、お部屋の装飾についても工夫したいと思っております、「つるみっ子ルーム」に来られた方のお楽しみ感が増すような取組みを進めてまいりたいと思っております。

続きまして3つ目、地域団体等と連携した児童虐待防止啓発活動の実施といたしまして、年間20回を予定しております。平成27年度、平成28年度につきましては、各地域で実施されている防災訓練に出向きまして、参加者の皆さんに啓発資料等を配付するなどの啓発活動を実施してまいりました。ちなみに、今年度につきましても年間20回を予定しております、現在までに10回実施してまいりました。平成29年度につきましては、関係団体等の皆さんと啓発方法についても協議いたしまして、連携して進められる方策について検討してまいりたいと思っております。

そして、次に児童虐待防止学習会・講演会等を3回開催する予定でございます。平成28年度の枠の左側の矢印ですけれども、児童虐待防止に向けた講演会につきまして、早期発見も大切だが、抑制に向けた取組みも必要ではないかというご意見をいただきまして、子育て講演会としまして、「誰もが感じる子育ての不安やストレスを軽くするコツ」という題名で、保護者の方の悩みですとかイライラを少しでも軽くして、児童虐待に至らないようにという思いを込めまして開催いたしました。平成29年2月には、「今どきの子育て、今のジョウシキ・昔のジョウシキ～世代間ギャップを埋めるには？～」というテーマで、保護者の方だけでなく、子育てを支援していただく方にもお聞きいただいて、子育てに関わっていただく方を増やしていくことで、保護者の子育てに対する負担感の軽減につながるような、そういう講演会を開催したいと

思っております。また、引き続き、関係局との保育ニーズ検討会議を2回。保育環境の充実に向けた働きかけを26保育所に実施してまいりたいと考えております。

また新規事業といたしまして、まだ仮称ではありますが、「子育て施設情報博」の開催を1回考えております。資料の下のトピックスにも記載しております。

平成29年度の枠の左側の矢印ですけれども、前回の部会の後で、待機児童対策といたしまして、保育施設に関する情報の公開についてご意見を頂戴いたしました。頂戴いたしましたご意見につきましては、1番後ろの資料2「これまでの区政会議における主な意見」の1に記載しておりますので、また後ほどご確認をお願いいたします。

子ども・子育て支援法では、多様な教育、保育施設や地域の子育て支援事業の中から、自分の家庭に一番ふさわしいメニューを個別のニーズに応じて選択し、円滑にご利用いただけるように、利用者への情報提供を行い、また必要に応じ相談・助言等を行う利用者支援制度が導入されました。このように、利用者と保育等施設のマッチングを進めることは、待機児童の解消にもつながると考えられております。そこで、この情報博では、多くの施設の方々にも一堂に会していただきまして、保護者の方が会場に来られれば、施設の方と直接お話をしてもらえるなど、保護者の方々にさまざまな情報に触れていただく機会を提供することで、それぞれの子育て家庭のニーズに合わせていろいろな施設等を利用していただいて、ひいては待機児童の解消につながることを期待したいと思います。また、その時期につきましては、幼稚園、保育施設等の募集が始まる前、8月ごろの開催を予定しております。また、その他としまして、現在、鶴見区役所のホームページに保育施設の一覧を掲載しているのですが、そのページから各保育施設等の公式ホームページにリンクするなど、よりわかりやすいページとなるようにリニューアルしたいと思っております。

以上、雑駁ではございますが、子育て支援の充実に関しましての説明を終わらせていただきます。

○杉本地域活動支援課担当係長      続きまして、次のページの【2】教育支援を説明

させていただきます。

平成27年度は、世界にはばたく人材の育成事業としまして、異文化交流や英語スピーチコンテストを実施しました。また、学校と社会を結ぶ取組みとしまして、青少年「夢・未来」講座、小・中学校への出前授業を実施してきました。委員の皆さんから「夢・未来」講座について、子どもたちの興味をかきたてる授業をする新たな企業への働きかけをしてはどうかというご意見をいただきました。そこで、平成28年度からミズノ、ワダカルシウム、エヴェッサの3社を加え、現在11社の企業等にご協力いただきまして、10月末現在で6校、延べ59回の青少年「夢・未来」講座を実施しております。また、平成28年度からは新たに、教育支援の充実ということで、教育行政連絡会での学校との連絡調整や協議の場を、各学期1回。学校協議会、こちらは保護者や地域の方などの声を学校運営に反映するための組織です。こちらへの参画、また校長会・教頭会への参画。小・中学校のカルテの作成及び課題解決に向けた取組み。これは、校長会や教頭会での情報共有のほかにも、小・中学校の17校に向くなどしまして、聞き取った課題や要望などを一目で状況把握できるように、各学校ごとにいわゆるカルテを作成して、学校の実情に応じてきめ細やかな支援を行っていくということに取り組んでいます。それから、校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校の支援。発達障がいサポーターを活用した小・中学校の支援などを行っています。異文化・英語に親しむ取組みとしましては、異文化交流や留学生との英語交流を実施しております。

平成29年度の運営方針の具体的取組みの3としまして、教育支援の充実として、平成28年度同様、学校に寄り添った形で各学校の課題解決に取り組んでいくために、学校協議会や校長会・教頭会への参画。また、各小・中学校への聞き取りなどを行い、学校カルテを活用しながら、教育支援を行っていきたいと考えています。また、校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校の支援17校。下記のトピックスにも掲載しております。小学校の英語教育をサポートしますということで、平成29年度から小学校

の低学年においても英語活動が開始されることを受け、校長経営戦略支援予算を活用し、講師派遣や教材、英語絵本やDVDを購入するなどの教育支援を行おうと考えています。

今年度は異文化・英語に親しむという取組みの中で、異文化交流や留学生との英語交流を行ってきました。参加者からは好評ではあったんですが、対象者が20名程度と限られていることから、小学校低学年からでも英語活動が開始されるということもあり、学校での英語活動をサポートすることで、より多くの児童が英語に親しんだり、世界にはばたく人材が育成できるのではということで、小学校の英語活動を支援していこうと考えています。

それから、もう一つのトピックスとしまして、発達障がいサポーターを活用した小・中学校の支援の充実として、今年度2,076時間だったサポーターの稼働時間を、29年度は4,320時間の配置を予定しています。これは、小・中学校に在籍する発達障がいなどがある児童・生徒に対してサポーターを配置し、学校生活における行動面を支援している事業ですが、現在は学校からの申請に対して十分な時間を配置できてないということ、また、学校からの要望が非常に高いことから、サポーターの稼働時間を拡充して学校支援を行っていこうと考えています。

次に、学校と社会を結ぶ取組みとしましては、青少年「夢・未来」講座の開催10校、延べ60回を予定しています。こちらにつきましても、協力企業や事業内容を増やすなどのメニューの充実にも努めていきたいと考えています。

続きまして次のページ、子ども・青少年の健全育成です。地域と連携した青少年の健全育成の取組みとしまして、平成27年度、28年度、29年度と同じイベントや取組みとなっているのですが、青少年指導員、青少年福祉委員などを中心とした地域住民による夜間地域巡回の実施や、子どもたちが安心して暮らせる環境を確保しようという取組みで、もしものときに子どもたちが助けを求めることができるように、地域の協力家庭や店舗などに目印となる旗やステッカーを掲げている「こども110番

の家」事業などは、継続した取組みが重要だと考えております。

また、トピックスとしましては、平成29年度、高校軽音ライブクリーンプロジェクトを拡充します。このイベントにつきましては、高校生が鶴見緑地のような場所で演奏できるということだけでなく、公園内の清掃活動がよい取組みだということが広がりを見せており、非常に人気が高く、今年度も2日で枠がうまる状態となっています。そこで会場数を3会場から4会場に増やし、より多くの高校生の活動の発表の機会を提供することとします。現在は噴水前と花栈敷、展望塔前で行っていますが、ハナミズキホール、附属展示場を会場として実施する予定です。

また、もう一つのトピックスですが、青少年健全育成鶴見区民大会のメニューの見直しとしまして、中学校吹奏楽部が継続して活動発表できる場の提供を予定しています。現在、区民大会では1部を青少年健全育成に係る講演、2部を青少年の活動発表の場として実施していますが、この2部の青少年活動の発表の場を、継続して中学校の吹奏楽部が活動発表できる場として提供したいというふうに考えています。

続きまして、資料2になります。資料2の3ですが、委員さんから若者の意見聴取についてということで、中学生・高校生に鶴見区についての意見を聞ける場を設けてはどうか、また、成人の日の記念のつどいで区政会議委員の席を設け、二十歳の誓いのスピーチを聞ける場、機会を設けてはどうかというようなご意見をいただきました。そこで、まず中学生・高校生の意見を聞ける場ということにつきましては、高校生会議を鶴見商業高校、汎愛高校、茨田高校の生徒で、12月中に開催する方向で現在調整をしております。また、成人の日の記念のつどいですが、来賓として、各地域活動協議会会長や各種団体の長などとあわせて、区政会議こども教育部会委員の席を設ける旨、成人式実行委員会に報告しまして、現在了承済みの状況です。

以上です。

○西岡部会長      ありがとうございました。今の説明へのご意見、ご質問ございませんでしょうか。

よろしいですか。

次世代に向けたまちづくりのほうの平成29年度取組みの校長経営戦略支援予算、  
これの予算は大体どれぐらいかというのは、もう出ているんですか。

○杉本地域活動支援課担当係長 出ています。今年度も来年度も590万です。  
小・中学校合わせまして590万です。

○西岡部会長 これは、各学校からこういうことをしたいというような形で出てきたものを選ぶような形ですか。

○田中こども・教育担当課長 校長戦略支援予算には、基本配付、加算配付と区担当教育次長執行枠という3つがあります。加算配付は、教育委員会のほうで学校から出てきたものについて、審査委員会が審査をして各学校に予算をつけているのですが、区担当教育次長執行枠のほうは私ども区役所のほうで、小・中学校でこんなことしようとか相談しまして、大体同じようなものを予算をつけて実行していくという形で、先ほども申しましたように例えば英語のサポートとか、こういうことを一律にやっていきたいということで考えているところでございます。

○西岡部会長 そうですか。わかりました。

○前川委員 今、部会長のおっしゃったページに発達障がいサポーターとあるのですが、これは何か資格をもった人なんですか。もし、資格が必要だとして、どのようにこの募集はされているんですかね。

○杉本地域活動支援課担当係長 サポーターのほうは、資格は要らないです。

○前川委員 例えばどういった方たちが採用されていますか

○杉本地域活動支援課担当係長 地域の方や学生が多いです。

○前川委員 その推薦は地域がされるんですか。

○杉本地域活動支援課担当係長 いえ。各学校で募集して、人材確保をしているような状況です。

○前川委員 はい。わかりました。

○西岡部会長　これには、人数の枠とかそんな制限はないのですかね。各学校で何人ぐらいとかいう。

○杉本地域活動支援課担当係長　各学校での予算がありますので。

○西岡部会長　予算の範囲内になる。

○杉本地域活動支援課担当係長　人を多く雇えば1人の方が来る日数は少なくなりますし、1人だとその方が稼働する時間が多くなるということになります。

○西岡部会長　その辺はもう各学校に任せているということですね。

○杉本地域活動支援課担当係長　はい。申請に応じてやっているのですけれども、予算額の範囲内で、人は何人までというところは特に制限はしていません。

○田中こども・教育担当課長　ただ、今のところ学校から非常にそういう要望が多いと。当然、その支援を必要な子どもが増えてきていますので、多いという中で、なかなか我々の予算の範囲では、学校の要望に十分応えきれていないところがございます。今回こういった形で予算を増やして、少しでも多くの人ということで。ただ、これに対しましても、100%要望に応じられるかということ、なかなかそこまでいかないと思います。恐らく7割とか、そういう数字かと思いますが、少しでも支援できる形を増やしたいということで、予算を増やしたいと思っていますところ。

○西岡部会長　時間的換算すると、倍以上の形になっているのですね。

○真鍋委員　サポーターは何名ぐらいがやられているんですか。各中学校で1人、2人なんですか。

○杉本地域活動支援課担当係長　小・中学校それぞれ1人から3人ぐらいで対応しています。

○木本委員　これの成果って何か出るものがあるんですか。上がっているそういうチャートか何か、そういったものはないのですか。

○田中こども・教育担当課長　チャートというもののまでは、実際なかなかないんですけど、ただ結果としまして、サポーターをつけることによって、学校の授業が円滑

に進むとか、そういうことでの効果はあると思うんですね。発達障がいサポーターは、休み時間とか校外活動などの教育課程外の活動を支援するものですが、そのお子さん自身もやっぱり支援を受けることによって、課外におけるいろんな活動においても、障がいのない子どもさんと一緒に活動するとか、そういう面での支援をすることによってなじんでいけますので、それによって学校全体が少しでも落ちつくとか、そういった効果はあると思うんですけれども、ただその辺はなかなか数字的にどうかというのはちょっと厳しいところがあるかもしれませんけれども、そういう効果は実際にあります。

**○木本委員** 支援を受けている子どもたちって、どんな感じなんでしょうか。学生ぐらいの子やったら、お兄ちゃん、お姉ちゃんっていう感じでいけるけどね。おやじ、おふくろって感じになる人もいると思うので、どの辺のどういう年代の人がサポーターに一番向いているかというのも、逆に学校が見ておられるのかなと思って。やっぱりうちの学校のこういう子どもたちには、こういう年代のこういう人がいいなとか。そんなのもされたら、募集するのでも、募集の仕方もあるだろうし、地域の実情もあると思いますし、対する子どものそういったニーズもあると思うんですけど、やっぱりある程度、どういうふうな年代の人がいいのかなというのは、学校側も見て、そぐう人を募集するというのがやっぱり一番。時間が増えたからという部分でいったらいいと思うんですけど、時間が増えなくても中身が濃かったら、やっぱりいいわけなんで。中身を濃くするという意味だったら、その相手の人を選ぶのがすごい大事だと思うので、そういうところを見られたらとは思いますが。

**○田中こども・教育担当課長** いろいろ学校の話も聞いていましたら、例えば、学校に教育実習に来た学生さんとか、年齢が近いということもあるのかもしれませんが、熱心に取り組んでもらっているというようなこともありまして、やっぱり学校のほうとしましては、そういった実習に来た方とかに再度声をかけて来ていただくとか、そういうようなことも多いようですね。私どものほうも、確かに人材の確保が難しいと

いうことも聞いていますので、例えば、教員養成系の大学に声をかけて、サポーターの方を少しでも来てもらえるように声をかけていくとか、そういうことは今いろいろ考えているところでして、やっていきたいと思っているんですけれども。

**○宮田委員** 以前、横堤小学校の校長先生、公募の校長先生が来られたときに、一番初めに相談を受けて、そのときは、横堤の地活協がNPOをとっているわけでもないの、いきいき放課後事業に定年制がありましたでしょ、そのときに定年になられた人を紹介させていただいたんですけれどね。子どもたちも顔を知っているというのがあって、学校にも慣れているというのがあって、今もそのサポーターのほうにもちょっと顔を出していただいたりしています。はじめは、さっきも言われたように、時間が短かったんですけれど、やっぱり子どもの対応、この子にはこのぐらいの対応が必要だろうと言って時間が伸びたと言っていました。その方には、定年でいきいきを終わるよりは、その後、また学校のサポートに入れて、ほかの子どもたちにも関わられるのでよかったと言う声もいただいているのですけれどね。だから、今言うように、なかなか若い人でも難しいと思うし、そういう人がおいでになれば、その人の口コミでまた違う人に声かけて、年代的というより、子どもたちがいかにその人たちになじむかという、そこが大事なのかなあと思うのですよね。

**○杉本地域活動支援課担当係長** 児童生徒も安心感というのが大事になってきますから。

**○宮田委員** そうです。物すごく安心感があつたみたいで、前はちょっと手におえなかったけど、やっぱりその人が入ることによって、落ちついてちゃんとしているという話を聞いていたのです。今回みたいに、時間が大幅に増えるということは、多分全体的にはいいことなのではないかなあということもあるし、その方も言われていたのが、やっぱり時間が短いので、もう少しいてあげたいなあと思っても、なかなかそこまでできなかったという部分もあるという話を聞いていたのです。これに関しては、すごく強化的にはいいのではないかなあと思っています。対応時間が約倍になってい

るんですからね。その分、人材確保がちょっと大変だと思うんですけれどね。

○前川委員      もう一つ申しわけない。非常に基礎的な質問で、この事業は鶴見区独自のものか、それとも大阪市全体でされているものですか。

○杉本地域活動支援課担当係長      大阪市全体の事業です。ただ、人の確保だったり時間の配分、これは区長マネジメントですので、各区によって状況は違います。

○前川委員      申しわけございません。これは非常にいい事業だと思うんです。ただちょっと心配なのは、今、委員がおっしゃったように、このサポーターが市だけでちょっと大変なのではないかなあという。学校が線引きするのか、もしくは行政の方が線引き、どこかで何か線引きがないと、ああ来てくれはったわ、はい、どうぞ、と言ったときに、その指導を受けている子どもたちがさらに悪くならないかなあという例もどこかでなかったのかなあ。僕、資格と言ってしまいましたけど、何か基準があったら、例えば、若い人に限るとかと言うと、今度は人材がいなくなる可能性もあるかもしれないですけども。ただ、事業的には非常にこれはいい事業だなあと思いました。

○木本委員      こういう子たちって、小・中と受けているんですけど、特に中学校に上がる子って、当然小学校のときもこういうふうな障がいのある子というような形で認知されて、それが小学校から中学校へ行ってという流れの中で、この子はちょっとというのでサポーターをつけますよという話をしたうえで、対応されるんですよ。

○杉本地域活動支援課担当係長      申請はさまざまで、親から学校に相談するケース、それから学校が判断してやっぱりサポートをつけたほうが円滑に学校生活が進むだろうというケースがあるんですけども。

○木本委員      親と学校とどっちが多いですか。学校でしょうね。何かしら持っているのは。

○田中こども・教育担当課長      親は逆に、余りそういうことを認知しておられないかもしれませんし。

○木本委員 親はどうしても認めたくないから。

○杉本地域活動支援課担当係長 そうなんです。認めたくない子もいたりという。

そういう子は、小学校のほうが多いのは多いんです。中学校よりは。

○前川委員 これも聞いた話やけど、発達障がいというのを定義することも難しいですね。親が勝手に、うちの子は発達障がいと言っても、教えているほうにしてみたら、いや、全く普通ですよという子もいているし。一方で親が気づかない。大変やなあというところもあると思いますけれど、こういう時間数が倍になったということは、なかなかええことだなあとは思いますが。

○西岡部会長 この前聞いた話なんですけれども、小学校でそういう子どもの対応というので、先ほども言われたように、保護者がそれを認めているか、認めていないかと言われたら、かなり。学校のほうでは、いろんな面で大変になってくるので、サポーターというか、そういう人をやっぱりつけてと思っても、その保護者自体がそれを完全に拒否すると。うちの子はそんなんじゃないですと言って。そうするとやっぱり、授業中とか休み時間とかちょっとしたことで、3階の窓から椅子だったか机を投げたという子どももいたというので、そうすると、やっぱり他の子どもたちにも大変やし、それが他の保護者の方にわかると、そういう子と一緒にやっていていいのかとか、またそういう違う面の問題も出てきて大変だったと。だからこういうサポーターというような形で、お互い話をして、お互いが納得する上でつけていっていただけるような形になってきたら、一番いいのじゃないかなと思う。子どもも落ちついているときと、やっぱり何かの拍子に出るときというので、それはおのおのその子どもの持っている発達障がいのいろんな形があるとは思っているので難しいところだとは思いますが、けれども、こういうふうに時間的にも長くなると、子どももその人という時間が長くなったら、慣れというか、その人との安心感、絆というのもできてくるので、これはやっぱりちょっとでもいいことじゃないのかなと思っています。

それと、次世代に向けたまちづくりの中の平成29年度の中で、青少年福祉委員を

中心とした地域住民による夜間巡視とありますね。これ今、各地域でも青指さん（青少年指導員）、青福さん（青少年福祉委員）とが一緒になってやっておられると思うんです。それとはまた別ということですか。

○杉本地域活動支援課担当係長     いえ、これはその取組みです。

○西岡部会長     それをということで。

○杉本地域活動支援課担当係長     はい。

○西岡部会長     そうしないと、また別ということだったら、地域でこんなに忙しいのにできるのかいうのも出てくる可能性もあるので。

○杉本地域活動支援課担当係長     はい。その取組みです。

○西岡部会長     あと、この下のトピックスのところの、青少年健全育成鶴見区民大会の2部の中学校の吹奏楽部ということなんですけれども、中学に吹奏楽部ってどれぐらいあるんですかね。

○杉本地域活動支援課係長     4つ。中学校5校中、吹奏楽部は4つです。

○西岡部会長     4つですね。

○杉本地域活動支援課担当係長     1つはマリンバです。

○西岡部会長     そうですね。横堤中学校はマリンバですね。それがここに書いているように、吹奏楽部だけが対象となるのか。

○杉本地域活動支援課担当係長     いえ。横堤中学校のマリンバも合わせまして5校で実施ということですよ。

○西岡部会長     合わせてということね。それでは5校ということですね。

○杉本地域活動支援課担当係長     はい。5校で。

○西岡部会長     吹奏楽部と書いてますが、5校対象になるんですね。よろしいですか。

○杉本地域活動支援課担当係長     そうです。5校対象です。ただちょっと5校一度にというのが難しいので。

○西岡部会長　　そうですね。ちょっとやっぱり時間的にむずかしい。

○杉本地域活動支援課担当係長　　3校で、毎年継続してローテーションを組んでいきたいと考えています。

○西岡部会長　　ほか何か皆さん、ございませんか。

それでしたら、もう一つすみません。次世代育成に向けたまちづくりの経営課題3の平成29年度の仮称の子育て施設情報博なんですけれども、これはどこですとかいうのは決まっていますか。

○日下保健福祉課担当係長　　一応、場所につきましては、区役所の3階の会議室でと考えております。

○西岡部会長　　そこへ情報博ということなんで、いろんな情報を、と。

○日下保健福祉課担当係長　　そうですね。今一応、鶴見区内の幼稚園、保育所、あとは子育て施設の担当の方に来ていただいて、お越しになる保護者さんと直接お話をしていただけるような場にしたいなと思っております。そうして、それぞれの施設の方に、保護者さんがどういうところかなと、それぞれ聞いていただいたら。ふだん保育所に申込みをされるときには、事前に各園に見学には行ってくださいねというお伝えはさせていただくんです。やっぱり園によって、例えば雑費とか、保育所によっては制服をつくっておられたり、あと、小さいお子さんはないかもしれませんが、スイミングに行きますとか、何々教室するのに先生を呼んできていますとなると、そういうことをされているとやっぱりその費用の負担とかがあったり、またそのメニューはすごく違いがあるというのも聞いていますので、そういうことも含めて、やっぱり事前に知っておいていただかないと、いざここ行きますよとご案内して初めて知ったとなってもいけないので、そういうことを含めて。

○西岡部会長　　入ってから違う、こんなんじゃないということになるとね。

○日下保健福祉課担当係長　　そうです。それで、行ってくださいと言われていても、第1希望の園とかは皆さん行かれるんですけれども、第4、第5になってくると、皆

さんあんまりそこまでは行かれないんです。ただ、いざご案内になったときに、4番目、5番目のところしか案内できなかつたりすると、そのときになって、いや、こんなはずでは、になったりもあるので、事前にやっぱり情報を取ってもらおうと思うと、皆さん一堂に会しておられるところに来ていただくと、よりたくさんの情報も仕入れていただけるかなと思っていますので。

○西岡部会長      簡単に聞けますもんね。一々園まで行ってというと、また大変だと思うので。

○日下保健福祉課担当係長      なので、そういう場を設けたいなと思っております。

○西岡部会長      そうですね。今、それこそ公立の園と、やっぱり私立の園とでも違うと思いますので、その辺もそういう一か所で説明を受けられたら、ここも聞きたいな、ここも聞きたいなというのでいけるとと思いますので。わかりました。

○木本委員      これは子育て世代とか幼稚園・保育園というお子さんを持つお母さんとかが対象だと思うんですけど、この施設情報ってすごく今、大事で、保育所が足らん足らんとか言って待機児童が多いという話が日本中あるでしょう。それはそれでわかるんですよ。こういう情報博というのもいいと思うし、されたらいいと思うんですけど、もう一つは、この情報博に参加したりするというお母さんたちの意見を、逆に、取れる場というのはないですよ。個別で連絡があったとかいろいろあったとしても、やっぱり一堂に会して、いろんなこういうのが並んでいるとか、そういう情報を、お互いの親同士の情報を交換し合う、共有し合う場というのも、逆にどこかでつくってあげたら、じゃあ、私と違う悩み持ってはるねんなあとか、そういう部分で何かそこにアドバイザーの人が入って、そういう話があったらこうどうですかと、いろいろできるような会があってもいいんじゃないかなあとは思ったりするんですよ。だから、当然区役所の側が主導してと思うんですけど、ある種、そういう会って、お母さんが出てきて、お母さんが中心となって区を動かすというようなものになっていくというものも作られたらいいんじゃないかなと思うんですよ。最初10人で始まっ

て、30人、40人と増えていって、当然お子さんが大きくなったら参加できないけれど、何かそういうふうなお母さんたちの、情報が交換できる、共有し合える場があるんだよってというのがあったら、安心して話を持ってきて、またそこでいろんな情報が入っていって、行政のほうにも何か働きかけとか、新しい素案が出るかもしれないし、やっぱりそれはもう少しそういう場がいいとは僕は思うんですよ。今はそういう場が実際ないのね。だから例えば、実際、区のPTAもやっているような、各校下のいろんな委員さんが集まって、忌憚のない意見を出し合ってという情報交換ね。誰でも構いません、場を設けますから来て話してねという。その中で、各校下のそういう委員の人が来て、いろんな情報を持って帰って、いいところはやる、これはやらない。そういういろんな話ができる場を持っているんですよ。この11月にあるんですよ。そういうふうな場をどこかで、ちょっと規模が大きくなるかもしれませんが、つくってあげたらいいと思うんですけど。また違う話が出るかもしれないし、当然、年少さんとかそういう歳のお母さんと、年長さんのお母さんとも違うやろうし、その辺、保育園の子やから当然、ゼロ歳保育からあるわけだから、そういうところもいろいろね。逆に言えば、2、3歳のお母さんがいたとしたら、上に年長のお母さんがおられたら先輩になるから、こういうようなことしたよとかいう話ができると思うし、そんな場をもう少し。地域ってなかなかそういう場を設けているようで設けていないというのがあるから、サロンとかあっても、やっぱりその辺で遊ばせて何かそういうところでしょ。

○西岡部会長      そうです。ちょっとその辺と。今も思ったんですね。

○木本委員      違うものね。趣旨が違うから。

○西岡部会長      サロンとは、ちょっと趣旨が違うなと。

○木本委員      だから、それを逆にそういうふうな、地域でもええから、月1回か何かでそういう場を設けますよ、来てくださいねという、何か話ができるところを。当然、そういう子育ての話もしているとは思いますが、やっぱり子どもを遊ばすとい

う。

○西岡部会長　子育てサロンの場合、基本的には家で閉じこもって、1人っきりになってというのがやっぱり良くないので、それを出てきてもらって、いろんな人と友達になってもらおうと。昔だったら、家におばあちゃんとかいろいろいたんだけど、今はもう核家族化になっているんで、家でどうしても話し相手もいないとかいって、子どもに手を出してしまうような。それをサポートしようというのが子育てサロンの基本的な考え方なので。その辺も含めて、ちょっとどこでというのは、今すぐには難しいかもしれないですけども、いえば先ほどのその。

○木本委員　それはまず、何かそんなものをしてもらったらおもしろいかもねって思ったので。

○西岡部会長　そうであれば、今度、情報博をするんだったら、その中に取り入れることも可能かどうか。部屋を1つちょっと用意してもらったら。

○木本委員　一遍やって、そこで1つ課題があったら、次こういう課題に対して話をしますから来ませんかとかやっていったらいいんだろうし。何かで線引きして、募集と言ったら変だけれども、何かそういうふうなものをしてもいいんじゃないかなあ。実際、子どもさんを連れのお母さんって、すごい多いですもんね。だから、やっぱりそういうものを、もっとどんどんしてあげたらいいと思うし。近所に住んでいても、知らん顔の子とか、そこら中にいるから、やっぱり心を開いて前に出ていけるようにというふうな輪をつくってあげられたらいいとは思いますが。

○西岡部会長　どうしても、行政とか地域でそういうふうなことをすると、ちょっとかた苦しいような感じで思われますね。横堤地域では、大体月1回なんですけれど、お母さんたちがちょっと会館を貸してほしいと。何をするのか聞いたら、自分たちで同じような年ごろの子どもがいるお母さんたちを集めて、遊びもあるし、いろんな話もしたいんだということで。それだったら使ってくださいという形で、今もずっと毎月1回されてるんで、それに関して言うと、その活動に係る実費は自分らで出してと

というような形でされてますんで、それこそ、おもちゃをどうしようかといったら、この前、天六のクレオ大阪子育て館までおもちゃを借りに行ったと言っていました。やっぱりそういう情報も、知ってる人は知っててというので。そしたら、行政とか僕ら関係ないんで、もっと何か普通の話をしてるのと違うかなと思うんですけど。

○嶋原保健福祉課長　　言われているように、そのサークル的な形のものでできていけば一番いいのかなということで、サークル活動の支援という取組みも子育て支援室のほうでしているんですけども。

○西岡部会長　　なかなかやね。

○嶋原保健福祉課長　　なかなか、やっぱりその年代で、そのときに主になってくれる人がいる間は続いているんですけど、小学校などに上がっていかれて、主になる人がいなくなると途切れてしまうことはやっぱりあります。区役所はサロンであったりとかいろんな機会に、保育士や保健師が行かせてもらっていますので、その中でいろいろと情報提供であったりとか、それから、逆に親子さんの状況によって支援が必要かどうか等、情報を得ている部分はあるんですけど、確かに言われているように、意見交換の場という、なかなか区役所としては、情報発信が主となっている部分がありますので、サークル活動への支援等を含めいろいろと検討といいますか、考えさせてもらう部分かと思います。

○西岡部会長　　可能なら、少しでも早くそれを実現してもらったらと。

○萩副区長　　キッズプラザを見ているすと、子どもはばあっとやっぱり遊ばせておいて、お母さん方はグループでお茶を飲んでいました。お茶を飲んで、そこで情報交換をしている。これは非常に有効だと思ひまして、区役所でそんな場所と言え、  
「つるみっ子ルーム」がそんな形になってくれたらありがたいなあとも思っています。そういう場の提供も含めまして、ちょっと中で検討させていただきますので、よろしくをお願いします。

○西岡部会長　　ほか何か。

○真鍋委員 「こども１１０番の家」なんですけれど、これは家の前にこども１１０番の旗が立っていたりとかするんですね。

○杉本地域活動支援課担当係長 はい。引き続きしています。

○真鍋委員 それで、前にちょっと聞いた話なんですけれど、この旗のあるところにピンポン鳴らして、子どもがトイレ貸してと言って、盗難事件があったというのを聞いて、新しくやってくれるところに、そういうふうな説明とかはしていかれているんですかね。今までされてる方だったらそれもわかって、その対応をしてくださると思うんですけれど、新たなところだったら、そういう事件があったこともわからないんで、そういう情報とかもその家庭に入れていかれるんですかね。

○杉本地域活動支援課担当係長 そうですね。事業趣旨とかは説明はしているんですけれども、そういう事象があったということは特に話をしていません。

○真鍋委員 一応、PTAも募集をかけたりしているんで、こんな悪いことする子は鶴見区にはいないと思うんですけど、そういうこともあったというのを聞いていて、今回、取組みに載っていたんで、ちょっと。

○田中こども・教育担当課長 議題にあがったことも含めて、もちろんいろんな説明はさせていただいておりますが、ちょっとその辺はいろいろまた検討します。

○真鍋委員 企業さんのほうとか、営業車に貼ってもらうとか、そういうほうも進めていただいたほうがいいかな。

○田中こども・教育担当課長 会社関係とか、商店とか、企業さんとかももちろんあるんですけれど、もっと力を入れて。いいかもしれませんね。

○木本委員 マンションなんですけど、一応その黄色の旗を張ってるんですよ。当然、マンションなので、なかなか上に上がってこないんですけれど、何かあったら来たらいいわっていう場合、マンションには管理人がいますから、管理人室に張らせてもらえばいいと思うんです。マンションやったら、何かに追われていても、上の階だったら逃げられませんやんか。逆に、１階に管理人室があるから、そこに張って、そこ

に逃げたらいいというふうにされたらいいのと違うかな。分譲マンションだったら、基本的に朝の8時、9時から、夕方5時、6時まで管理人がいはるから、そういうすぐ目につくところで、やっぱりマンションでは特に管理人室とかに張ったらいい。

○西岡部会長      どこでも玄関にあるんだから、間違いなしでね。

○木本委員      そう。真ん前やからね。

○田中こども・教育担当課長      マンションの協会とかそういうところに、ちょっとお願いしていいかですね。

○木本委員      一応、マンションの管理人に頼んで張ってもら。個人は個人で当然町会が入っているからオーケーですって張らせてもらっているけど、管理人さんは理事会とかに諮ってもらって、管理組合を入れてもらって。大きいマンションに張らせてもらうという意味でやったらね。あかんとは言わないだろうし。向かいのコーポでも管理人さんがちゃんといはるから、さっと入れる、逃げていけるからいいと思うし、そんなことも考えられたらいいのと違いますか。あと、コープに貼らせてもらってはどうでしょう。スーパーとかは人もたくさんいるし、一番安心するし。声を出したらすぐにたくさんの人が来てくれるから。

○田中こども・教育担当課長      一回ちょっと、そういう大きな商店とか企業にはもっと積極的にこちらから声をかけるとか、何か検討します。

○木本委員      協力もそれなりにしてくれるから。

○田中こども・教育担当課長      単にこちらから配布するだけではなかなか足りない場合もあるかもしれませんから。

○木本委員      まあ地域やから、すぐそうやって個人宅にいきますやんか。いいんですよ、それ。でも、それだけじゃなくて、スーパーのような物販をやっているところは、やっぱり一番人もたくさんいるし、にぎわっているところに逆に逃げていったら、絶対安心だし、追いかけてもこないし、退避する場所も結構広いから安心かなあと思うんですけど。

○田中こども・教育担当課長　　また毎年更新とかやっていく中で、マンションも含めて、いろいろ今のいただいたご意見を参考しながら実施していきたいと思います。

○木本委員　　普通の家やったら、子どもも行きにくいでしょ。そういうお店とかだったら行きやすいでしょ。助けてとかね。

○西岡部会長　　入りやすいですわね。

○木本委員　　行きやすい。

○西岡部会長　　なかなか家にピンポンして助けてくれとは。抑止力という感じで、地域でそれだけ見守っているんだというのを出すことの効果はあると思うんで。ただ、今、木本委員のほうからもあるように、本当に逃げ込めるところというののもちょっと考えるべきかなと。

○木本委員　　話は変わりますが、防犯カメラ設置は大分進んでいるんですか。茨田西地域、自分の住んでいる地域でもいろいろつけてもらっているんですけど、結構まだ暗いところも多いから、その辺をちょっと見てもらって、拠点にはやっぱり予算をつけて防犯カメラをつけてほしいなあと思います。

○萩副区長　　一応、今、30台設置する予定になっています。

○河村区長　　それは主に防犯の観点からの30台なんですけれど、来年は子ども見守りの観点も含めて、それとは別に、これは市の共通の予算でやる分になるので、実質的にはもうちょっと増えると思います。公園とか、その辺の通学路を中心につけていくということになっているんです。

○西岡部会長　　地域で全部をつけるとなったら、もう大変だったけれど、地活協を利用させてもらったら、結構な数をつけられました。

大体これくらいでしょうか、皆さん。あと、別にないですか。

それではこれで、本日本日予定されている議題は全て終了とさせていただきます。皆様の活発なご意見ありがとうございました。

あと、区役所のほうから何かありますか。

○杉本地域活動支援課担当係長      本日も多くの貴重なご意見いただきまして、ありがとうございます。今後の予定でございますが、本日、平成２９年度の具体的取組みについてご説明させていただきましたが、次回１２月に開催を予定しております全体会で、平成２９年度鶴見区運営方針素案として取りまとめたものにつきまして、ご意見を頂戴したいと考えております。日程につきましては、改めて調整させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○西岡部会長      ありがとうございます。それでは、区政会議第３回こども教育部会を閉会といたします。ありがとうございます。

閉会    １９時５２分